常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ　seasonⅡ

令和　４年　２月 18 日(金)

その３

◇ データで見る「岡崎市の新型コロナウイルス感染症」❺

「その❹」で、オミクロン株が愛知県よりも一足先に感染流行が確認された沖縄県・広島県等のデータ分析から、【１週間の感染倍数のピークから１倍程度に移行した地点を基準点】とし、２週後にはピークの半数近くまで減少する予測を述べた。「感染者数ピーク」の観点から、２月第２週現在の岡崎市の状況を読み解いてみる。

新型コロナウイルス感染者数（市発表）

日	月	火	水	木	金	土	週合計	前週比	
2	3	4	5	6	7	8			
2	0	0	5	8	17	26	58	—	
9	10	11	12	13	14	15			
17	16	21	54	53	73	53	287	4.9	倍
16	17	18	19	20	21	22			
37	53	95	126	137	100	176	724	2.5	倍
23	24	25	26	27	28	29			
80	134	200	158	239	252	257	1,320	1.8	倍
30	31	2月1日	2	3	4	5			
223	224	386	264	406	446	334	2,283	1.7	倍
6	7	8	9	10	11	12			
366	200	337	363	360	277	182	2,085	0.9	倍

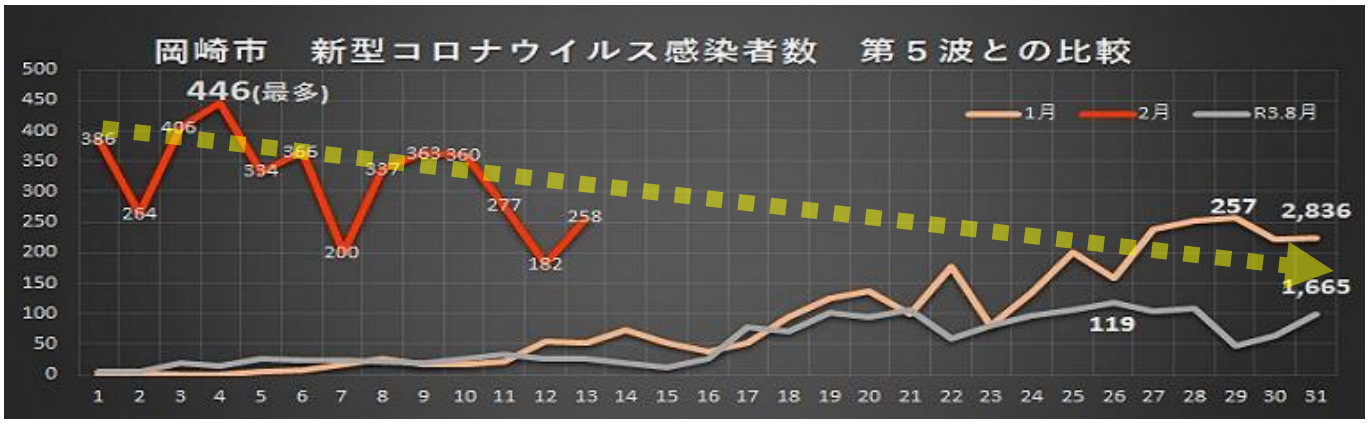
年末まで落ち着きを見せていた数値が跳ね上がるきっかけとなったのが、３学期直前の１/5（水）。多少の変動はあるものの、それ以降は右肩上がりに数値が上昇。

300 人を超えた紫色が気にはなるが、着目ポイントは前週比との倍数である。

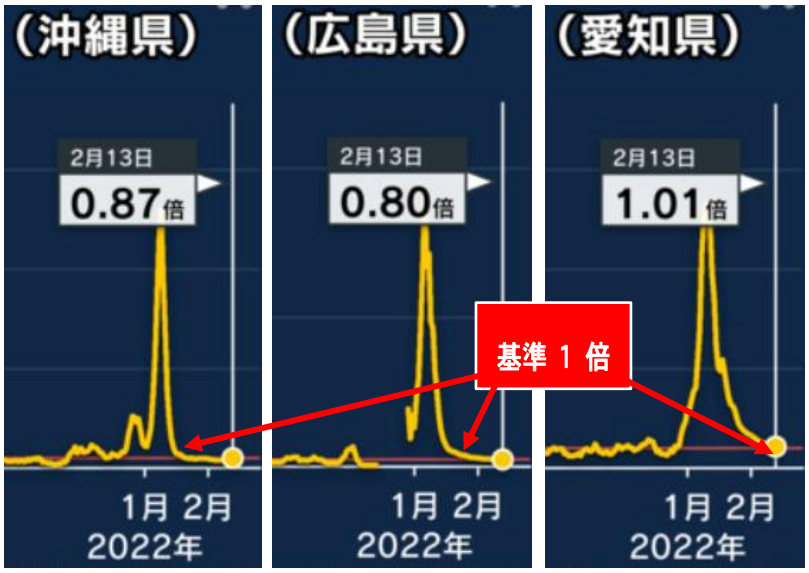
２月第１週と第２週は、紫色で表した日数だけなら、いずれも４日。合計人数も 2,000 名を超え、今年に入ってからは他の週を圧倒している。

ところが、第１週と第２週では、右端の【前週比】が大きく異なる。第２週は基準値の１を下回ったことに加え、第１週の半分である。これが表すものは、２月第２週が【高止まり】であり、倍数の下がり幅を見れば、ここから数値が下がっていくことが予想できる。「山を越えた」「ピークを越えた」と、言ったところか。

同様に、下の折れ線グラフからも、今後の減少傾向を推察することができる。



さて、ここで沖縄・広島両県と愛知のピーク倍率と現状を見てみる。



https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/week/

沖縄と広島に共通してグラフから読み取れることは、最大ピーク倍率から規準の１倍になった後からは、0.8 倍が３週間続いていること。

これは、基準１倍を100人として考えた場合、１週後：80 人　２週後：64 人　３週後：51 人と約半分になったことを示す。

実際の感染者数を見ても、最大時に比べれば 1/2 から 1/3 と、随分と落ち着いてきた。
(※沖縄県:1/13　1,817 人　※広島県:1/17　1,371 人)

両県の感染者推移から愛知県の今後の状況を推察するに、0.8 から 0.9 倍の前週比較を積み重ねていくのではないかと予想される。

つまり 19 日の今週末は、週計 1,700 人程度 26 日末には、週計 1,400 人程度だろう。

けれども日割りでは 200 人。まだまだ多い。本当に落ち着いたと言えるのは、100 人を割った時期。３月中旬までは気が抜けないだろう。